2022 年度 事業報告（中高）

１．基本方針

聖書に基づくキリスト教精神の原点にたち、常にこれを意識しながら教育活動にあたる。神様がその名を知り、愛された存在である一人一人の生徒を、現在要求されている学力のみによって評価するのでなく、その生徒の成長が自己肯定感・自己効力感を高めることにつながるものとする。そして、平和を創ること、隣人につながることを生涯を通して希求する者となることを教育目標とする。

「まなぶ」……主体的に楽しく学ぶ。「みとめる」……他者を認め、自分を認める。「つながる」……他者や社会とつながる。以上の３つのキーワードを設け、それぞれ、「主体性の伸長」、「人間理解の深化」、「グローバルマインドの育成」をカリキュラムポリシーとする。この教育課程をよりよいものに構築し、その実践を成果につなげるように取り組む。

緊急経営改善対策に対して、中高が守るべき具体的な重要事項は、中学新入生の定員確保である。少子化は将来にわたって続いていく状況の中で、それを守るために努力を惜しまず取り組む。また、中高の経営状況の丁寧な分析をし、中長期的な改善対策を立て、早急に実践していく。

２．具体的アクション

第 2 次中期計画 （行動計画）	2022 年度事業計画	目標達成のための手段等	具体的な目標（数値目標）	執行状況 及び課題と対応
(1) 教育理念の実践と内部質保証の実質化 ア　キリスト教主義教育 a. 礼拝を守る	・日々の礼拝を守る。	・ホール礼拝、放送礼拝、学年礼拝において、生徒に静粛・黙想・傾聴の姿勢を守らせる。 ・キリスト教行事の充実。	・キリスト教強調週間の諸行事が普段の学校生活の大切なものとつながる取り組みを模索する。	・ホール礼拝も以前の形式でできるようになり、毎朝が祈りをもって、落ち着いて始まっている。 ・キリスト強調週間講師は、姜尚中氏。 ・高校クリスマス礼拝は、文化学園ホールで実施。 ・メサイアも実施され、オーケストラ、合唱に高校生も参加できた。
イ　新しい教育課程の実践 a. 課題研究カリキュラムの実践→思考・判断・表現力	・「総合的な探究の時間」の充実	・探究活動推進委員会の指針による実践をし、更なる発展をするように取り組む。	・発表者の発信力の育成のみならず、応答者の意見・質問を通して身につく力を充実させる。	・LHR、総合の時間の取り組みや理科、社会、国語を中心とした教科学習内の取り組みにおいても、探求活動を重視している。中学 1 年生から、授業を teach から learn に変え、真の学力を身につける「まなび」にする。 ・3 月 15 日に、第 2 回探求フェスを全日で実施。探究活動の学びが深まっている。
b. 主体的な学びの実践	・EP（Extensive Program）講座の発展	・生徒が主催する講座の拡大および外部講師による講座など学校の外につながる講座の拡大。		・EP は生徒が企画する講座が増えている。一方、参加生徒が増えない課題あり。
c. 一人 1 台 PC の活用	・教科横断的な取り組みの推進	・授業自体を生徒が展開するなどして、学びの目的を自らが見出すように取り組む。		・中学 3 年生の PC の買い替えについて、保護者より 6 年間の使用でないことについて抗議があった。故障保障など 3 年間のものしかなく、対応の検討が必要。
d. グローバル教育の実践	・PS（Peace Studies）の学びの充実	・課題研究の視点を入れる。	・PS の学びに、課題研究的な手法を取り入れ、生徒一人一人の学びのゴールをつくる。	

ウ　生徒支援の充実 a. 集団に適応できない生徒の支援 b. 基本的生活習慣の確立	・教育相談体制の充実 ・SNS 使用のモラルを高める。	・教育相談会議の指針による実践。	・学習ルームの在り方などをふくめ、中学生のフォロー体制を強化する。 ・欠席多数による転出生徒の減少。 ・生徒保護者アンケートの評価の向上。	・学習ルームの呼び名を「サポートルーム」変える。より、一人ひとりの実態にあう、サポート体制をつくるよう考えている。 ・高 1 は 1 名の転出で 208 名が進級予定。中学からの入学者を高校卒業ができるようとりくんでいく。
エ　広報・入試対策 a. 志願者数の確保 b. 入試問題の適正化を図る。	・有効な広報活動に取り組む。	・本校の教育方針をわかりやすく発信する。	・志願者数 700 名を維持する。 ・21 年度に実施した、学校ミニ見学会などを実施し、学校生活での安心感などを伝える。	・人数制限なしの説明会を実施。10/1 入試説明会申込 352 名。 ・志願者 676 名。前年－40 名。合格ラインを厳しくした。新入生 177 名。募集 200 名より、－23 名。 ・2024 年度入試を検討中。 ・少子化、受験生・保護者のニーズの多様化など、志願者を増やしていくことは大変難しい状況が続く。この中で、中高の大切にしている教育を知ってもらう広報がより重要となる。全教職員でこれに当たる。
オ　進学実績を伸ばす a. 難関大学の実績を伸ばす。 b. 推薦入試・総合型選抜への対応	・生徒の学習習慣の定着を図る。 ・授業での学びの質を高める。	・中学生の家での過ごし方が問題となっている。放課後の過ごし方など、新しい対応をする。	・東大京大 4 名以上。国公立医歯薬 8 名以上。 ・保護者の進路に対する要求が、多岐に渡っている。共通な対応は、学力保障である。ICT 利用など、個別適正化という言葉も聞かれるが、40 名の一斉授業で行われる授業を見直す。	・指定校推薦出願者数、50 名。内、広島女学院大学 5 名。 ・共通テスト出願 137 名。 ・国公立大学の合格者数 60 名。内、現役 46 名。（推薦・総合 13）（大阪 3 北海道 1 神戸 3 九州 1 広島 20（医学科 3 含む）） ・私大現役生入学者数 124 名。その内、女学院 7 同志社 15 関西学院 13 安田 7 修道 2 広島工 1 国際 2 日赤広島看護 1 文教 0 ・中学生で放課後、図書館の自習室で勉強する生徒が増えている。今のところ、席数が不足までとはなっていない。
カ　緊急経営改善対策を行う a. 状況の分析	・法人本部による分析を実施。 ・早急な対応が必要なことを実施。		・分析後の相当な中高の収支構造改革に取り組む。	・今後の中高の安定した運営ができるための、将来計画を教員全体でしっかり考えながら、教員の働き方改革に継続して取り組む。